

# 水稲の生育状況と今後の管理対策（第4号）

令和3年7月1日  
新潟県農林水産部

## 〔6月30日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリの生育は、県全体では指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」ですが、地域差が大きく、茎数が「多い」ほ場や葉色が「薄い」ほ場もみられます。
- ◎ 新之助は、草丈は「やや短い」、葉数の進み、茎数、葉色はともに指標値「並」の状況となっています。

## 〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 6月24日発表の1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量は前線や湿った空気の影響により平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みとなっています。
- ◎ このため、中干し<sup>\*1</sup>が不十分で茎数が多いコシヒカリでは、今後の降雨や日射量の低下に伴う草丈の伸長や茎質の低下、根の発達不良により、倒伏の発生が懸念されます。
- ◎ また、コシヒカリでは葉色がさめ始めており、今後の気温が高い見込みであることから、急激な葉色の低下に注意が必要です。

\*1 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かし、稲の生育量を適正に保つ作業のこと

## 〔今後の管理対策のポイント〕

### コシヒカリ

- ◎ 茎数が多いほ場では、過剰生育を抑えるため、やや強めの中干しを継続してください。
- ◎ 中干しは遅くとも出穂期の1か月前をめどに終了し、終了後は浅水の間断かん水<sup>\*2</sup>を行い、徐々に飽水管理<sup>\*3</sup>へ移行してください。
- ◎ 3か月予報では、8月以降は高温が予想されています。著しく葉色の低下が見られるほ場では、品質を確保するため、ケイ酸質資材を施用するなどの対策を検討してください。
- ◎ 斑点米カメムシ類の密度を抑えるため、計画的な除草と防除を行ってください。

### 新之助

- ◎ 生育量が指標値に比べ大きくなっているほ場では、強めの中干しを行い、茎数の増加を抑えてください。
- ◎ 停滞水の排水やフェーン等の異常高温時に速やかなかん水が行えるよう、溝の手直し、タテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつなぎを確認してください。
- ◎ ほ場で葉いもちの発生を注意深く観察し、発生が確認された場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

\*2 間断かん水：たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法のこと

\*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

### 早生品種 (参考)

- ◎ ほ場で幼穂の長さを確認し、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、適期をのがさず穂肥<sup>\*4</sup>を施用してください。  
特に多収性品種では、収量確保のため、適正な穂肥施用を徹底し、出穂期までの葉色を確実に維持してください。
- ◎ 斑点米カメムシ類の被害を防止するため、計画的な除草と防除を徹底し、カメムシ類の密度を抑えてください。
- ◎ 葉いもちの早期発見に努め、病斑を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

\*4 穂肥 (ほごえ) : 穂が出る前に追肥すること

### 熱中症予防

- ◎ 湿度が高まり、蒸し暑くなると熱中症の発生リスクが高まります。
- ◎ 溝の手直しや除草、穂肥施用など、屋外での農作業時には、あらかじめ飲料水や日陰を十分に確保しておくなどの熱中症予防対策を必ず行い、健康管理に十分注意するとともに、気温の高い時間帯での作業を避けたり、頻繁に休憩を取るなど、農作業の安全対策にも十分配慮してください。

◎ 今後の管理対策発信予定日

7月9日・21日・27日・30日、8月20日、9月10日

## 〔補足資料〕

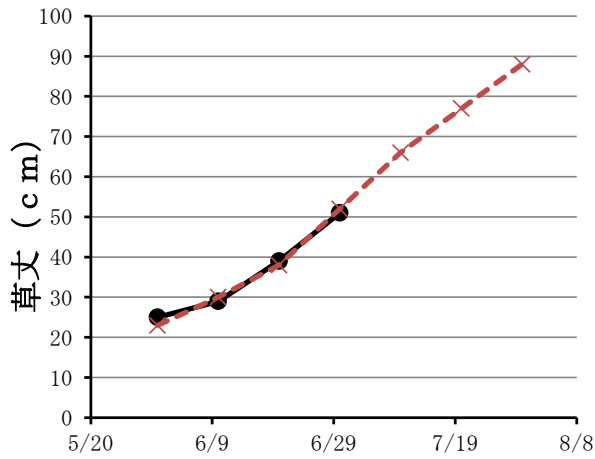
### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（6月30日現在）

#### コシヒカリ

○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」の状況です。

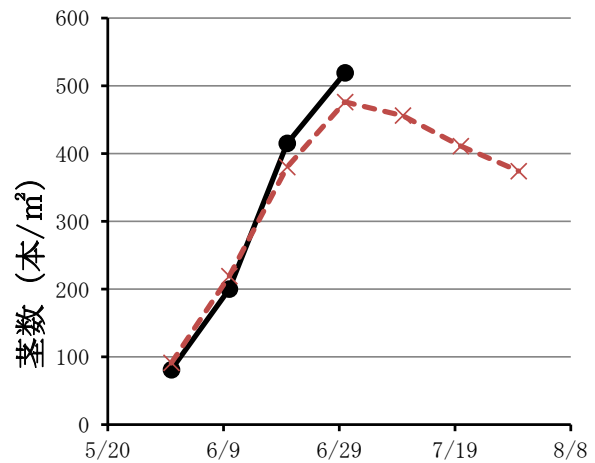
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	51 cm	52 cm	並	98%
茎数	519 本/m <sup>2</sup>	476 本/m <sup>2</sup>	やや多い	109%
葉数	10.0 葉	9.9 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	37.9	38.5	並	-0.6

注) 県内全域の115生育調査ほデータの平均値（田植え5月10日、栽植密度16.9株/m<sup>2</sup>）



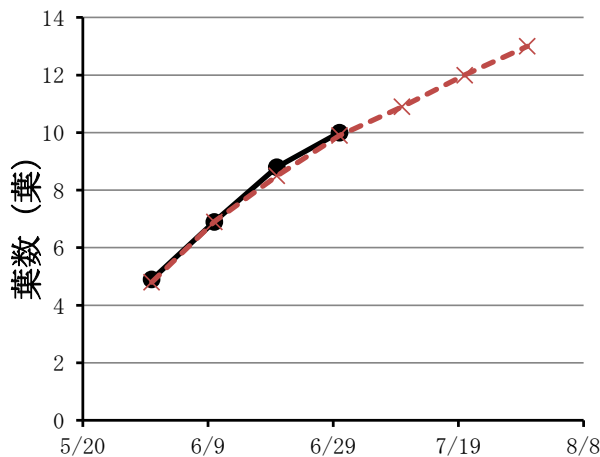
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移  
(県全体)



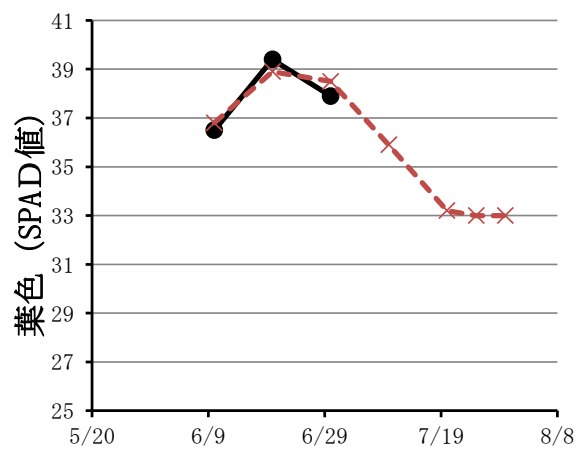
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移  
(県全体)



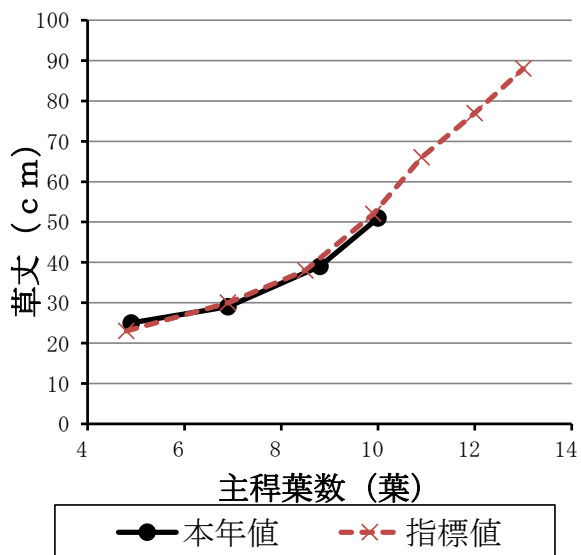
● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移  
(県全体)

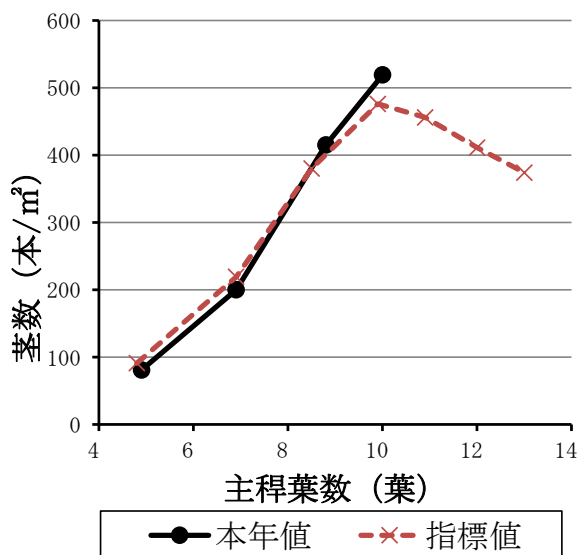


● 本年値    -x- 指標値

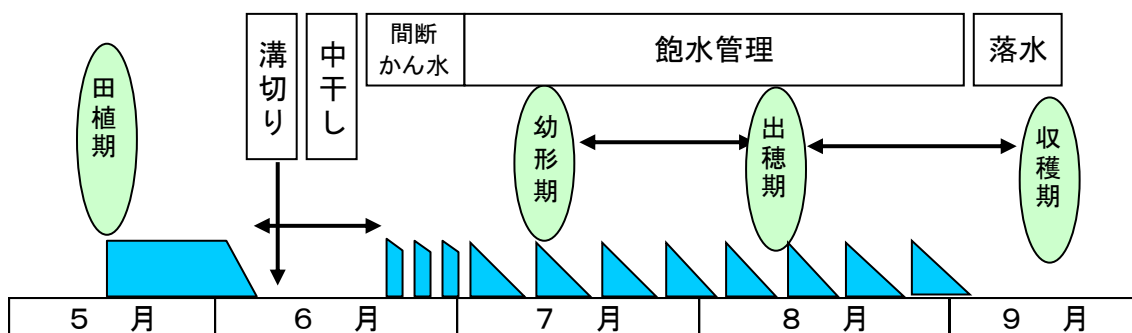
葉色の推移  
(県全体)



葉数と草丈  
(県全体)



葉数と茎数  
(県全体)



栽培期間中の水管理のイメージ  
(一般的な地区)



飽水管理により足跡に水がたまっている状態

◎ 灌水し自然状態で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている状態を維持する。

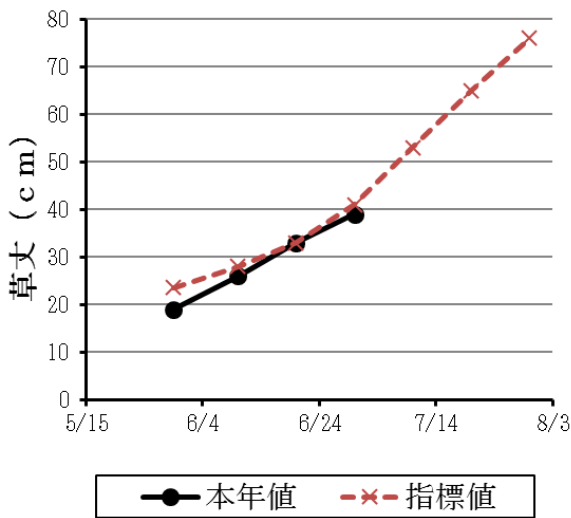
地温の上昇を抑えるには、灌水時間は晴天日では午前中、曇天日では朝が望ましい。

## 新之助

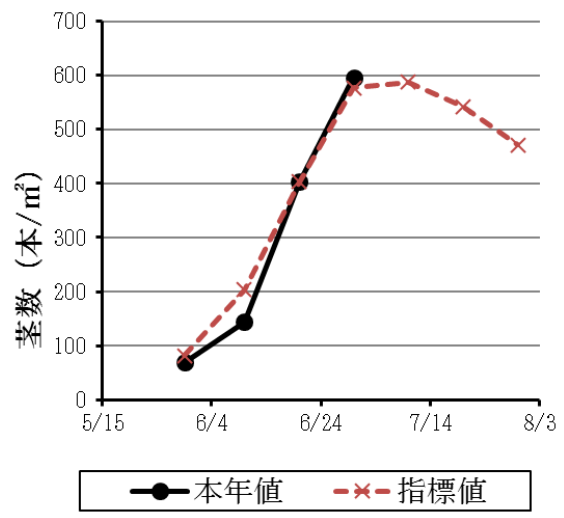
○ 草丈は「やや短い」、茎数、葉数の進み、葉色はともに指標値「並」の状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	39 cm	41 cm	やや短い	95%
茎数	596 本/m <sup>2</sup>	577 本/m <sup>2</sup>	並	103%
葉数	9.9 葉	10.1 葉	並	-0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	37.5	37.4	並	+0.1

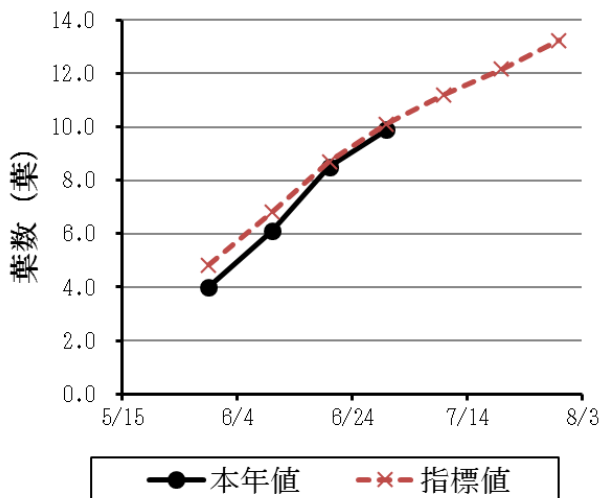
注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月18日、栽植密度16.0株/m<sup>2</sup>)



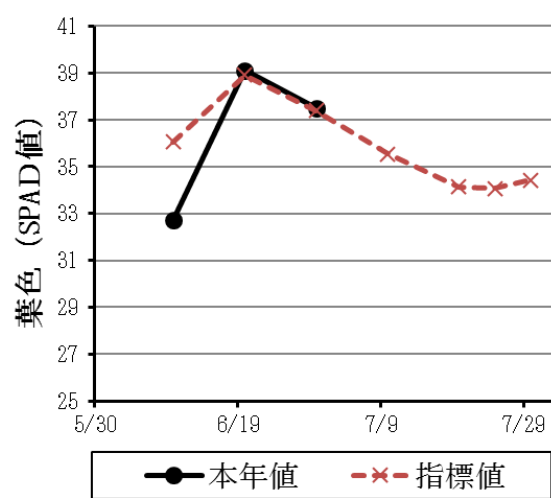
草丈の推移  
(県全体)



茎数の推移  
(県全体)



葉数の推移  
(県全体)



葉色の推移  
(県全体)

## こしいぶき

(参考)

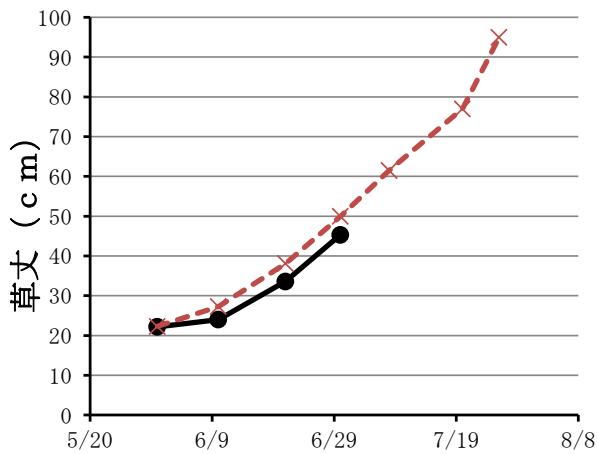
○ 指標値に比べ、草丈は「やや短い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	45 cm	50 cm	短い	91%
茎数	551 本/m <sup>2</sup>	610 本/m <sup>2</sup>	少ない	90%
葉数	10.2 葉	10.3 葉	並み	-0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	39.7	39.1	並み	+0.6

注1) 化学肥料栽培 田植え5月10日、栽植密度は20.7株/m<sup>2</sup>

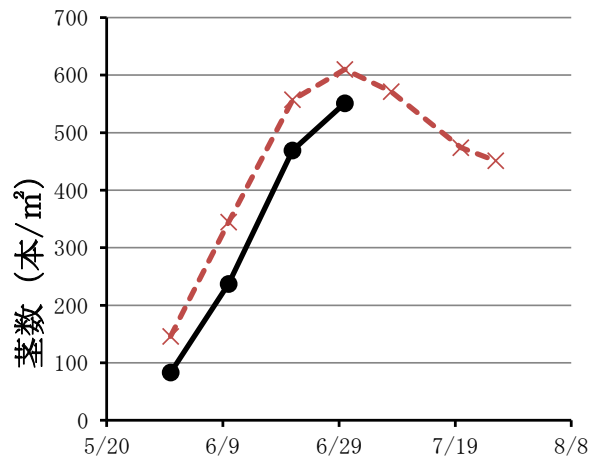
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



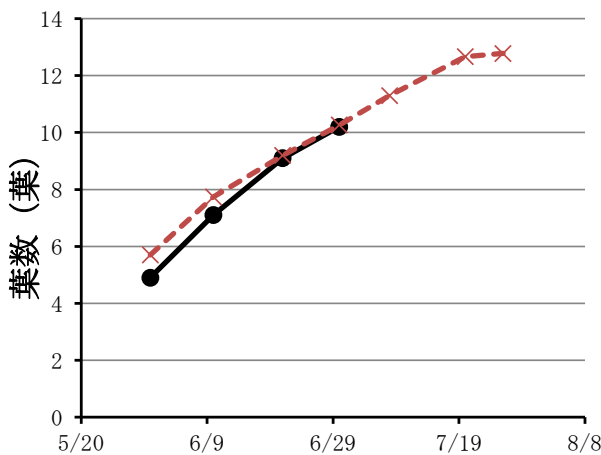
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移



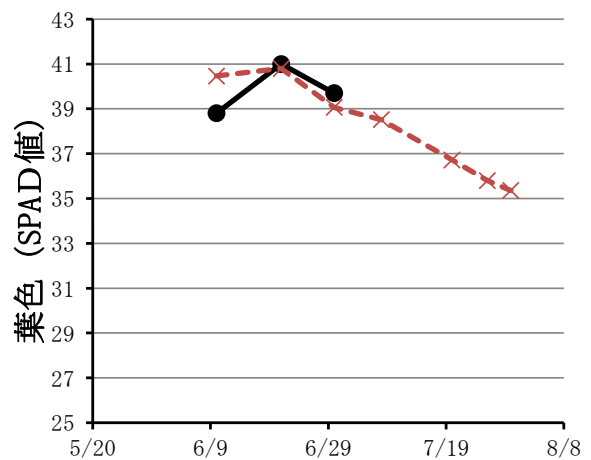
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移

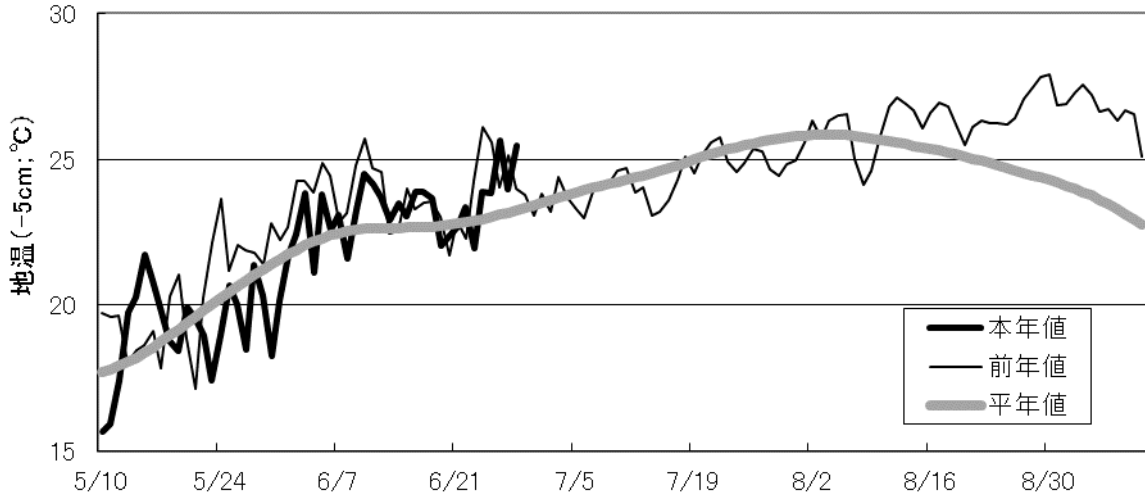


● 本年値    -x- 指標値

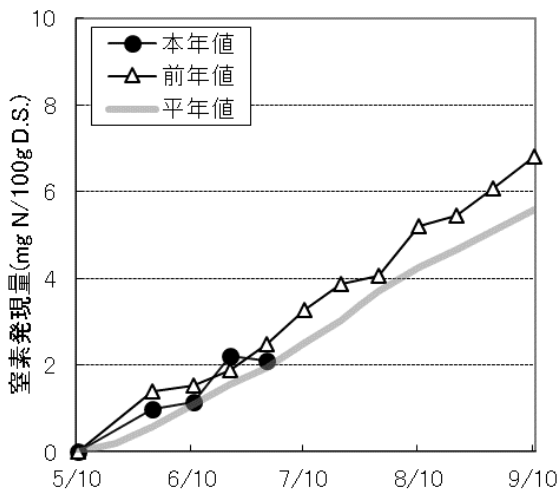
葉色の推移

## 2 ちりよく 地力窒素の発現状況

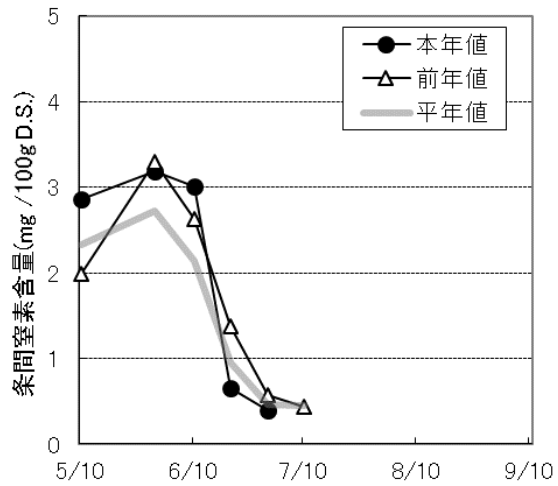
- 6/20～6/29の期間の日平均地温は平年差+0.7℃で高めでした。地力窒素の発現量と条間窒素量は平年並で、土壤中に無機態窒素はほとんど残存していない状態でした。



水田地温 (-5cm) の推移  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素の発現推移(6月29日)  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)  
初期値=0、移植日：5月10日、化学肥料栽培  
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含有率の推移(6月29日)  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)  
移植日：5月10日、化学肥料栽培  
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a